

Q. 所有者の分からなくなった土地が将来の市政に弊害を及ぼすのでは？

A. 具体的な数字は把握していないが実際に事例はある



ここを聞きました

- 土地の相続対策について
- 図書館建設について
- 市内観光について
- 市役所のICT化について

土地の所有権を明確にしていくサポートを

石井 その土地に住んでいない親族への相続が原因で、土地の所有者が分からなくなることが全国的に問題視されてきている。高梁市では対策をとっているのか。

政策監 土地絡みの事業を進めるときに、地権者が市外にいるため事業ができないという事例はある。

石井 市外にいる所有者に対して自治体が積極的に働きかけていくべきではないか。

政策監 土地や建物の所有権や相続問題に自治体が介入することは難しい。市内の空き家・空き農地に関しては情報バンク制度の活用を周知していきたい。

高梁市の民俗資料をアーカイブス化するべき

石井 現在、集落が保持している民俗資料をデータベース化するアーカイブス(書庫)機能を新図書館の一つの柱として位置づけられないか。

教育次長 民族資料は各地域局が保管している。データ化に関しては着手していないが、将来、行わなければならない時期が来るだろうと考えている。

石井 図書館の建設は位置ありきではなく、運用面から考えてほしい。賑わいの図書館を駅前、それ以外の機能を現在の場所にという形は考えられないか。

教育次長 一つの参考意見として承らせていただく。

Q. 医療と介護の連携による在宅サービスはどのように充実させていくのか

A. 在宅医療連携拠点事業で充実させていく



ここを聞きました

- 高齢者介護サービスの充実について
- ICT(情報通信技術)の取り組みについて
- 障がい者対策について

川上 在宅介護の担い手が嫁ではなく、息子や娘の時代に入っていく中で、介護保険制度の円滑な運営とサービスの質の向上についてどのように取り組んでいくのか。

健康福祉部長 人口減少に伴うマンパワー不足に対応するため、地域の方が支える側に回るモデルとして、川上診療所2階に川上高齢者見守り支援施設を設置した。

また、介護職員の確保と質の向上を目的とし、介護福祉士の資格を取得する者に対しての奨学金貸付制度や、介護職員養成研修等に掛かった費用の一部を助成する事業を同時に行っている。

川上 医療と介護の連携による在宅サービスの充実について、どのような取り組みを考えているのか。



健康福祉部長 高梁医師会の医師を中心とした高梁市在宅医療連携拠点事業推進協議会を設置し、医療と介護の連携事業に取り組んでいる。今後、必要な事業について協議検討し、事業実施を図っていく。

Q. 川上中学校仮移転、今後どうするのか

A. 仮移転校舎を継続使用する方針である



ここを聞きました

- 教育行政について
- 人口減少に伴う市政運営について
- スマートコミュニティについて

教育行政について

内田 川上中学校については、現在、城南高校川上校地に仮移転をして、改築後元の場所に戻る方針が示されている。3月定例議会において、教育委員会は2月に実施したアンケート結果を受けてPTA・地域住民の真意を確認するとしていたが、その後の協議状況はどうなっているのか。

教育長 アンケートの結果は、「今の校舎が快適」が62.3%、「多少不便だがこのままでいい」が35.8%、「前の校舎がいい」はゼロだった。こうした生徒の意見は最優先すべきと考えている。城南高校川上校地は耐震化されており、ゆとりもあるため、このまま川上中学校として整備を行っていくこととした。今後、関係者に

方針変更を説明し理解が得られれば、未改修部分を改修し教育活動の充実発展に努めたい。

人口減少に伴う市政運営について

内田 「地域別将来人口推計」によると、高梁市の2040年の人口は2万234人と推計され、県下最大の減少率である。この対策として、人口減少に対する施策として、人口減少を見据えた財政運営が肝要と考えるが、どのような認識を持っているのか。

市長 将来人口に対しての警鐘をいただいたと考えている。人口減少を食い止めるための施策を打つことが重要であり、これまでの施策の真価が問われるという認識を持っている。

Q. 若者向け分譲宅地を格安の値段で

A. 販売額の低減につながる施策を今後も検討



ここを聞きました

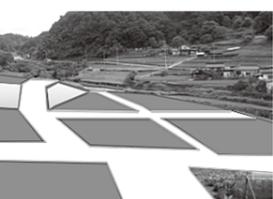
- 定住対策について
- 市道名の一部変更について

三村 市内周辺部では、子どもが激減し、小学校が存続の危機に立たされている。小学校を後世に残すのも我々の務めである。定住対策と少子化対策のために、それぞれの地域に若者向け分譲宅地を造成し、格安の値段で提供してはどうか。

産業経済部長 特別会計で造成事業を行っており、収支均衡を前提としつつ、販売額の低減につながる施策については今後も検討していきたい。

三村 本市は歴史、伝統、文化の城下町で、多くの偉人を輩出している。そこで、偉人ゆかりの場所や地域の市道名を、人物名を使つたものに変更し、看板を設置して市内の子どもから大人、また観光客まで広くアピールしてはどうか。

市長 非常にいい提案だと思ふ。道路名または愛称でもよいのではないかと考える。前向きに検討したい。



分譲宅地イメージ図



山田方谷通りイメージ写真